広瀬節夫著
「国語科学習指導の展開」

広瀬節夫さんの多年にわたる実践の成果が一冊の書物になって、世に問われることになった。わたしは、この偉業を待望していたもののひとりである。

本書では、広瀬さんが教職の道にスタートされて（昭和三一年）以来、およそ二〇年間の実践・研究が一八編の論稿にまとめてある。「現代国語」の基底を問い直すことからはじめて、小説・戯曲・詩・日記・評論の学習指導に及び、読書指導、古典（伊勢物語・源氏物語）の学習指導にわたる広い領域で、つぶさに、その展開が記述されている。それゆえ、入門のための書としても経験を積んだもののための書としても十分活用できる。

その各章節は次のように構成されている。

第一章　「現代国語」に何を求めるか
　第一節　「現代国語」の内容と方法
　第二節　「現代国語」における自由研究
第二章　文学作品の学習指導
　第一節　中島敦「山月記」の鑑賞指導
　第二節　森鷗外「舞姫」の課題学習
　第三節　森鷗外「山椒大夫」の鑑賞指導
　第四節　木下順二「夕鶴」の学習指導
　第五節　草野心平「富士山」の学習指導
　第六節　樋口一葉「蓬生日記」などの学習指導
第三章　論説・評論の学習指導
　第一節　桑原武夫「世界の文学をどう読むか」の読解指導
　第二節　湯川秀樹「人間」などの学習指導
　第三節　丸山真男「日本の思想」の学習指導
　第四節　安部公房の思想をとらえる
第四章　読書指導の展開
　第一節　課題図書による読書指導
　第二節　読書感想文を評価する
　第三節　ある読者像
第五章　古典の学習指導
　第一節　古典入門のための学習指導
　第二節　「伊勢物語」の学習指導
　第三節　「源氏物語」の学習指導

これらのどの章節も、そのまゝあすの教室に持ち込めるよう具体的に記述されている。次に特徴的な三点を記したい。その第一は「読むこと」の学習指導が徹底してなされていることである。そこでは、学習者は積極的に読みすゝめている。とりわけ、戯曲「夕鶴」の読み込みは、多面的で、鋭く、深い。これは、ひとえに指導者の「読み」の質を証拠だてるものである。

その第二は、学習の場が尊重され、学習者は個として重んじられていることである。個に徹し、全体を育てゝいくことに秀でた広瀬さんの人柄が反映されたものだろう。それは一編の感想文からも伝わってくる。

その第三は、実践家の立場での文学や文学教育上の諸問題が随所に指摘してあり、これから文学理論を確立していく足場は整備されたと見ることである。

先達や同伴者としての本書の意義は大きい

（昭和49・3・1、文化評論出版刊、A5判三八五ページ、二五〇〇円）

（世良泰弘）